

●日常や紛争・教育の現場で様々な語られる「民族」を掬い上げ、巨視的な議論が見落としてきた等身大の民族像を呈示。語られてきた側からの主体的自画像を探る。

# 民族の語りの文法

——中国青海省モンゴル族の日常・紛争・教育

一橋大学 シンジルト著

では、そうではない少数民族を生きる人々（少数民族民衆）はどうなのか。彼らは自ら背負う「少数」や「民族」の現状に無関心ではなく、何らかの形でそれに言及し、解釈を加えている。権威的語りにはめられ公定少数民族像を演出する者もいれば、そうではない者もいる。彼らの語りには国家型あるいは学者型語りのどちらかに近似する部分があれば、時と場によって両者を混同する部分もある。更に、これらと異なる語りの場合もある。「複雑」だが、彼らにとってそれは「矛盾」ではない。……彼にとってはそれが主体的なものでもある。その意味で、彼らは「少数」でもなければ「民族」でもない「普通」の「人間」である。

したがって、常に「少数民族」と名づけながら彼らの事象を考察しようとするれば、彼らの現状や心情を見逃すことになる。これは今まで歴史・政治学的な接近法で行ってきた少数民族研究の特徴であり、限界であった。例えば民族紛争や民族運動をみる際、それを安易に葛藤や運動といった巨視的な次元で取り上げるのでは、彼らの実状の理解には至れない。微視的な接近法で、少数民族の社会現実問題に注目すれば、従来の少数民族研究に現れてこなかったいくつかの景観がみられる。その社会的現実問題とは、どこかの社会の誰にでも一度は経験しうる日常的な出来事や、隣り同士での摩擦や衝突、そしてそれらに対する人々の判断や行動である。その中でみられる景観とは、個々の人々の様々な行動様式や人々自らその行動に付与する意味である。出来事、とりわけ紛争に関する人々の意識は、状況によって民族を基軸とした意識へと傾斜する。そこで、問題の原点はいくつかのコンテクストの中で展開される人間同士のやり取りと、それに関する人々の解釈および語りにある。本書では、現代中国における民族のあり方を考察するひとつの手がかりとして人々の語りに注目したい。（序文より）

## ●目次

### 序文

#### 第一章 理論研究における民族の語り

はじめに／一 理論一般における民族の語り／二 族団論／三 多元一体論／四 族群論／五 中国の民族学研究史にみる民族の語りの変遷／おわりに

#### 第二章 モンゴルイメージと河南蒙旗モンゴル社会

一 モンゴルに関する学問的な語り／二 河南蒙旗の民族史／三 河南蒙旗という社会

#### 第三章 日常生活における民族の語り

はじめに／一 ソツゴHと「ソツゴH的なもの」／二 自治県内部におけるソツゴの語り／三 自治県外部におけるソツゴの語り／四 河南蒙旗社会外部におけるソツゴ／五 民族の語りのパターン、語りの文法——結論

#### 第四章 牧地紛争における民族の語り

はじめに／一 河南蒙旗の牧地紛争経験／二 紛争当事者の語り——西部の事例を中心に／三 牧地紛争と仲裁者／四 河南蒙旗にとつての紛争と民族／おわりに

#### 第五章 教育運動における民族の語り

はじめに／一 背景／二 高揚／三 衰退／四 語り／五 考察／おわりに

#### 第六章 結論——民族の語りの文法

一 語りのパターン／二 語りの文法／三 語りを扱う本書の意義  
あとがき・引用文献・索引

### 体裁

・A5判・上製・カバー  
・四〇〇頁

### 定価

・四〇〇〇円  
(本体価格／税別)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一四一九  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

注文書	
センター取扱品 流通	発売
風響社	TEL: 03-3838-9249
シンジルト著	本体
民族の語りの文法	四〇〇〇円
中国青海省モンゴル族の日常・紛争・教育	部
ISBN4-89489-016-X C3039 ¥4000E	

【お客様控ええ】

ご氏名  
ご住所  
お電話

月 日